

サンプリング法に関する研究 — 圃場から食品まで —

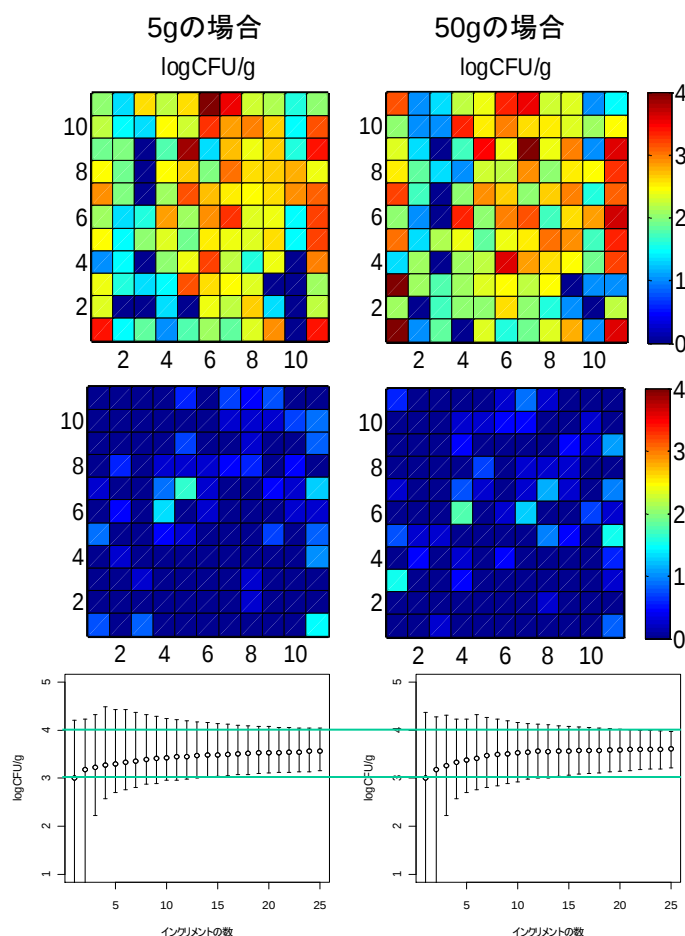
技術の特徴

- ・食品の分析を行うには、大きな母集団から、試料採取を行うことが行われます。
- ・試料採取において、十分代表的な試料を得るように配慮する必要があります
- ・統計的な調査計画を用いて、サンプリング法の性能を調べています。

研究の内容



5m × 5mの小さな圃場(上図)でも、均一ではなく場所によって大きく微生物数が異なる(右上、右中図)。なので、収集箇所数によって、調査精度が大きく変わる(右下図)



今後の展開

食品の成分のバラツキに関する多くの知見を集めて、より妥当なサンプリング法を多くの食品に対して開発していく。

圃場に近いところでのサンプリング法を開発していく。

参 考

2010, サンプリング、最新版 食品分析法の妥当性確認ハンドブック、サイエンスフォーラム、p. 55-71.

2010, CCMASにおける統計的な議論、最新版 食品分析法の妥当性確認ハンドブック、サイエンスフォーラム、p. 40-47.

2010, 食品のサンプリング検査に関する現状と考察、食品と容器、51(7)、440-445